

## 第10回新城市若者議会

令和2年11月6日（金）午後7時～午後8時  
新城市議会 議場

開 会 午後7時00分

1. 若者議会議長あいさつ

○市園響議長 若者議会議長の市園響です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから第10回新城市若者議会 市長答申を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。8月の第6回の若者議会では、政策中間報告を行い、担当課及び関係課の方々と意見交換を行いました。その後も担当課職員の方々からアドバイスや意見をいただきながら話し合い、令和3年度若者予算事業計画を策定いたしました。本日は、若者議会市長答申ということで、4つの事業を説明させていただきたいと思います。

2. 発表

○市園響議長 初めに、移住定住委員会による「ビンゴde移住事業」です。発表者は、石内 輝（いしうち ひかる）委員です。よろしくお祈いします。

○石内輝委員 今から、移住定住委員会の発表を始めます。

私たちが提案する事業は「ビンゴde移住」事業です。

まず、この事業を考えるに至った経緯を説明します。

新城市は、年々人口が減少し、若者の減少も続いています。実際に住んでいる私たちは、自然が多く子供ののびのびと育つ環境もあり、都会へのアクセスもよいなど、とても住みやすく良いまちだと感じています。例えて言うなら「丁度いい田舎」。私たちは、この「丁度いい田舎」にもっと人が増えてほしいと願っています。ですが、周りの同世代では都会や近隣のもう少し大きな街へ出ていきたいと

口にする人や、実際に出て行ってしまう人が多くいるのが事実です。しかし、全国に目を向けると、田舎暮らしを考えている人が多くいるのも事実です。

そこで、私たちは新城を出ていく人にアプローチするのではなく、全国の田舎暮らしを考えている、田舎暮らしに憧れている人をターゲットにし、その中でも未就学児の子供がいる若者ファミリーを最終的なターゲットに設定しました。なぜ未就学児のいるファミリーをターゲットにしているかというと、節目である小学校入学前のほうが、転校など子どものことを考えたときに、引っ越しやすく、そして実際に引っ越す人も多いのではないかと考えたからです。

ターゲットのポイントは3つあります。1つめは、先ほど説明した未就学児の子どもがいる若者ファミリー。2つめは、移住して、新城を好きになって、地域と関わってくれる人。3つめは、新城の良さを発信してくれる人です。そんな人が新城に増えてほしい！という思いを実現するためには、目を引くような新事業を行ったら良いのではないかと考え、今回の事業を計画しました。

続いて、ビンゴde移住政策について説明します。

私たちに、この政策を通して叶えたい望みが3つあります。それは、「若者ファミリーの定住」「新城の良さを知ってもらい、地域と関わってもらう」「新城の良さを発信してもらう」の3つです。

ターゲットは先ほども言ったとおり、全国の田舎暮らしをしたい若者ファミリーで、ビンゴに参加できるのは先着5世帯です。

ビンゴという特徴を活かし、各項目を達成していくことで新城を知り、関わってもらい、良さを発信してもらい、魅力に気づくことで定住に繋がります。そうすることによって、私たちの叶えたい望みが達成できます。

次は、ビンゴの内容について説明していきます。

ビンゴのマスは9マスで、中央の住民票を移すマスからスタートします。

残りの8つのマスは、3つのテーマをもとに内容を振り分けます。

1つめは「移住者家族にとってプラスになると思うこと」

例えば、地元のお祭りへ参加したり、資源回収に参加したりするなど、地域との関わりや繋がりが持てるマス。児童館に行ったり、保育サービスを利用したりするなどの子育て世帯との繋がりを持てるマス。

2つめは「新城市や若者議会として是非行なってほしいこと」

例えば、若者議会が行うイベントに参加したり、若者議会の会議を傍聴したりするなど、若者議会との繋がりを持てるマス。観光地や市内飲食店などを家族で訪れたり、SNSで新城の情報を発信したりするなど、情報発信に特化したマス。

最後は「移住者家族がわくわくする楽しそうなこと」

例えば、新城の特産物を使用した料理を食べたり、特産品を扱う飲食店を利用したりするなど、特産物を扱ったマス。鳳来寺山に登ったり、軽トラ市で買い物をしたりするなど、観光スポットに関わるマス。などを考えています。

そして、ビンゴ1列達成ごとに、新城の良さがわかり、新城と関わることのできるような贈呈品を送ります。具体的には、ファミリーサポート利用券、新城の特産品盛り合わせ、フォレストアドベンチャーや湯谷温泉など市内の施設体験チケット、両親や友人を新城へ招待するための費用などを考えています。贈呈品はいくつか用意するようにし、対象者はその中から選んでもらうようにします。全8列のうち、1, 4, 7, 8列目達成で10万円相当、その他は2万5千円相当の贈呈品を考

えています。

ビンゴのPR方法についてですが、対象は全国です。その中でも広報の中心は移住者が引越ししやすい「東海エリア」、移住検討者が情報を求め集まる「ふるさと回帰支援センター」でチラシを配布します。

想定される費用は、ビンゴ達成贈呈品で250万円。宣伝広告費で17万1千円。計267万1千円です。

この政策は、ビンゴのマスでも、贈呈品でも、新城に関わることができます。

そんな政策を通して、期待されるメリットをいくつか紹介させていただきます。

まず、地域との関わりが深まり、人付き合いなど「田舎の良さ」が残ります。その結果、防犯面や災害時の避難で助け合いが生まれ、絆も固く結ばれます。

続いて、ファミリー層をターゲットにすることにより、新城の良さが次世代へ伝承され続けるという好循環が生まれます。また、若い層をターゲットにすることで、SNSを通じた情報発信が増え、外部にも新城の情報が伝わっていきます。

そして何より、新城の良さを知ってもらうことができます。新城へのプラスのイメージが付き、そのまま好きになってくれることで新城の伝統文化の継承者になってもらえる可能性も増えるのではないのでしょうか。

最後に、この政策最大のポイント。ビンゴという話題性且つインパクトのある政策を行うことで、新城の知名度を向上させることができます。

今挙げたものが、私たちの考えるメリットです。

以上で、移住定住委員会の発表を終了します。

ご清聴ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、駅前・商店街開

発委員会による「感じてみりん！新城の桜プロジェクト事業」です。発表者は、木戸ゆめ（きど ゆめ）委員です。  
よろしくお願ひします。

○木戸ゆめ委員 ただいまより「感じてみりん！新城の桜プロジェクトの発表をはじめさせていただきます。

私たちは普段から通学などの際に新城駅を利用していますが、私たちが今、新城駅に感じることは、「駅の雰囲気暗さ」と「人通りの少なさから感じる寂しさ」です。さらに今年は、今まであった新城駅の桜が伐採され、家族や友人、駅前に住む知り合いの方からは「桜の木が伐採されて寂しい」と話す声も聞きました。私たちは、このままでは新城市の玄関口でもある新城駅がどんどん寂しく暗くなってしまふのではないかと感じました。同時に、今まであった桜の木が市民にとっての日常になっていたことも知りました。

今回、新城駅がリニューアルすることもあり、私たちはこの新城駅を桜の木を活用して、もっと元気に明るくするために、私たち若者の視点で何かできないかと考えました。

そこで桜の木に所縁のある方のために、桜の思い出や歴史を残し続けます。そして次世代の方にも新たな思い出を作っていってもらい、また新城駅といえば桜という印象を定着させます。そうすることにより、駅前の桜を見に来る人が増え、駅前が明るく元気になっていくのではないかと考え、今回の事業を計画しました。

私たちは、3つの政策を行います。

まず1つ目は、新城駅前にあった桜の木を活用して看板を作成します。今予定されている図案は別紙のとおりとなっています。伐採された桜の木をみんなで見ることができる形として残すことにしました。そうすることで、歴史や思い出を共有し駅前に残すことができます。看板の文字は「ようこそ新城へ」です。

新城駅前を新城市の玄関として、この看板でお出迎をします。そして看板には「若者議会」の文字を入れることで多くの人に若者議会の活動を知ってもらい、PRにもつながります。

そして2つ目は、リニューアルする新城駅前のロータリーに、伐採された桜の木と同じ種類であるソメイヨシノを植樹し、看板と共に伐採された桜の木の歴史や思い出も引き継ぎます。

最後に3つ目は、桜の木の植樹イベントを行います。イベントを行うことで、新しい桜の木と看板の存在を知ってもらうことができます。植樹は参加者にも土をかけてもらい、より愛着と記憶に残ってもらえるようにします。イベントの最後には記念撮影の時間を設けて、新たな桜の始まりを記念に形として残してもらいます。イベントの告知については、広報ほのかやポスターなどを活用していきます。また、来ることの出来ない人にはイベントの様子をティーズで報道してもらい、より多くの人に桜と看板の存在を伝えようと考えています。

今年度、都市計画課が整備していることによる利便性の向上に加え、私たちの提案で景観や雰囲気を明るくすることにより、新城駅前リニューアル事業を後押しすることができ、新城駅をより良いものにできます。

想定される費用は、看板設置費では基礎工事やレーザー加工費用など合わせて1,177,000円。桜の植樹ではソメイヨシノを植樹し、土壌改良などして51,000円、そして植樹イベントの宣伝広告費として42,000円。

合計で、1,270,000円となります。

今回の提案により、元々植えられていた、たくさんの人の思い出が詰まった桜の木を利用することで、市民の思いや歴史を繋げることができます。

また、新たな桜の木を植樹し、さらに看板

には桜のデザインを施すことによって、新しい世代や市民へ、より強く「新城駅といえば桜」というイメージをつけることができます。そうすることにより、新城市は駅前に桜がある所というイメージが生まれ、駅前の桜がきっかけとなり市の桜のPRにつながっていきます。

そして、帰省した人が桜で新城市を懐かしく感じ、また帰ってこようと思えるような環境が整備され、新城駅が桜で華やかになることで、通勤通学者も駅を心地よく利用することができます。

私たちが新城駅前に今まで感じていた暗さや寂しさが、桜を使った今回の事業を行うことで、明るく元気になっていってほしいと考えています。

以上で、駅前商店街開発委員会の発表を終了します。

ご静聴ありがとうございました。

○市園響委員 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、観光・PR委員会による「家族でしんしろってかん？事業」です。発表者は、城所邑衣（きどころ さとえ）委員です。よろしくお願いします。

○城所邑衣委員 私たちは、「市外の人に何度も新城市へ訪れてもらうこと」を目的とした政策を検討してきました。その中で、心に残るような体験は歳を重ねても色褪せない大切な思い出となると、そして、大人になってから旅行先を決める際にもそのような子どもの頃の思い出を参考にしていることに気づきました。

そこで、都会では味わうことの出来ない新城市ならではの自然やそれを活かした体験をしてもらおうと考えました。訪れた子どもたちに新城市の良さを知ってもらい、楽しい思い出を心に残してもらうことで新城市に再び訪れるきっかけとして欲しいと思います。

私たちの政策の対象は、主に名東区や長久手市等の名古屋圏に在住し、小学生の子どもがいて車を使い新城市に訪れることの出来る家族です。新東名高速道路によって名古屋圏から新城市への移動はより簡単にできるようになりました。また名東区や長久手市は小学生が多いため、対象をこのように設定しました。

続いて、政策案・手法についてです。私たち観光・PR委員会は、新城の強みを活かした体験イベントの開催を予定しています。

イベントは夏と秋に各1回、やまびこの丘で行い、参加者は8家族ずつ、1泊2日のテント泊です。全体を通して達成感が得られるようなミッションを取り入れ、子供が全力で楽しめるようなイベントにしたいと考えています。

夏コースは、自然と触れ合うことを中心としたプログラム案として予定しています。プランは11時からで、お昼に五平餅を作って食べます。午後からは家族でテントを設営し、虫取りや魚取り、川遊びなど自由に自然と触れ合う時間になります。その後、野菜の収穫体験をし、BBQの準備をし夕飯を食べます。そしてメインのスウェーデントーチの準備をし、各自で点火してもらいます。夜には都会ではあまり出来ない、花火も出来るようにします。テント泊をしてもらい2日目、朝食とテントの片付けを済ませて、9時まで自由行動で各家族好きな時間にチェックアウトをしてもらいます。

秋コースは、自然の中で体を動かすことを中心としたプログラム案となっています。夏と同じく11時からで、お昼にバームクーヘンとホットドッグを作って食べます。午後からは芋掘りをし、持ち帰るもしくはBBQで食べれるようにします。その後、森の中で遊べるスラックラインや木に書かれた印を探すツリーラリーなどで体を動かし、ミッションをクリアしていきます。そしてBBQの準備

をして夕飯を食べた後、望遠鏡を使い星空観察をします。テント泊をした後は夏コースと同じです。

このイベントには講師となるコーディネーターやサポートスタッフが参加し、円滑な運営や盛り上げをはかります。運営スタッフは初日のみで、2日目は各家族自由に行動できるようにします。ミッションは子供の制限をかけることはせず、体を動かしたり自然と触れ合うきっかけとなるものにします。

主なPR方法は、名古屋圏の名東区と長久手の全ての小学校へのチラシの配布を予定しています。その他、ポスターやSNSなどでも発信していく予定です。

次にこれらの政策に想定される費用について説明します。

夏・秋イベント開催にかかる費用は、夏コース934,000円、秋コース928,000円の計1,862,000円。広告費用として435,000円。その他運営費用などの諸経費で660,000円を想定しており、総計2,957,000円を計上いたします。

最後に、新城へのメリット・効果についてです。これらの政策案・手法を用いることによって、新城の魅力を肌で感じてもらうことができ、実感してもらうことによって新たな新城のファンができます。ファンがSNSや普段の会話の中などで周りの人達に新城の魅力を拡散することによって、その周りの人達に認知されるようになり、知名度が上がってきます。

こういったことによって新城を訪れる新規の観光客が増えていきます。

また、新規の観光客やリピーターが増えることによって利益や客観的な視点からの意見をいただくことができます。市外の方々からの意見というのは、自分たちが普段当たり前だと思っていたことが実はそうでは無かったというような、新たな気づきとなります。

それらを基に事業の改善や新たな事業への挑戦などさらなる新城の魅力の向上に繋がっていきます。こういったサイクルができることによって、新城はますます発展して行けるのでは無いかと考えました。

以上で、観光PR委員会の発表を終了します。

ご静聴ありがとうございました。

○市園響委員 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、国際交流委員会による「PON×2 Bonds事業」です。発表者は、松井暖実（まつい あつみ）委員です。よろしくお願いします。

○松井暖実委員 国際交流委員会です。よろしくお願いします。

まず初めに事業名の由来について説明させていただきます。この事業名には、新城市に住む人が住みやすいまちにしたいという意味を込めての「People Oasis New castle ～人々の憩いの場所 新城」という意味と、「新城市の問題に打ち勝つ」という意味を込めての「Problem Overcome New castle」という2つの意味があります。

そして頭文字であるPON、絆という意味のBonds、私たちが普段会議を始めるときの掛け声である「ぼんぼんぼーん」の全てを掛け合わせ、この事業名に決定しました。

この事業名の由来にもあるように、私たちは、新城市が国籍関係なく助け合うことができ、市民全員が住みやすいまちを作りたいと考えました。

今回私たちがターゲットとする人々は、市内に住む日本人・外国人となります。

その理由として現状では、外国人は日本人の知り合いが少なく頼れる日本人がなかなかいなかったり、日本人は自分たちと母国が違う外国人とコミュニケーションをとれるかど

うか不安でなかなか話せなかったりと私たちの理想とは真逆と言ってもいい状況です。

この状況はお互いを知る機会・関わる機会が少ないからこそ生まれてしまっていると私たちは考えました。

そこで、私たちは、日本人と外国人の間にある壁を無くすために様々なきっかけを作ろう！という意見に辿り着きました。

同じ時間を共有し、同じことを一緒にやることで外国人と日本人の間の壁がなくなるきっかけ、お互いを理解するきっかけなど様々なきっかけが生まれると思います。

そこで、できたつながりを途絶えさせないよう年間を通してイベントを提案します。

私たちの政策を三段階に分けて説明します。まず、第一段階では「出会う・繋がる」をテーマに、20人前後を対象とした小規模イベントを二か月に一回のペースで開催します。ここでの目標は日本人と外国人とが出会うきっかけを作ることです。料理や運動、季節のイベントなどを通して、国籍を問わない新城市民が関わる場を提供します。

次に、第二段階では「触れる・学ぶ・理解する」をテーマに、年代性別を問わない多くの人を対象とした大規模イベントを開催します。ここでの目標は多くの人に異文化に触れてもらうことで、国籍や言語による壁をなくすきっかけを作ってもらうことです。ここでは新城在住外国人の中でもより人数が多い国のブースを出展し、彼らの文化についてより知ってもらえるようにします。イベントの詳細は別紙をご覧ください。

最後に第三段階では「深める・継続する」をテーマに、第一段階でも行ったような小規模イベントを大規模イベント後も行います。ここでの目標は第二段階で新たにできた繋がりを更に深くし、継続することです。大規模イベントで異文化に興味を持って、時間が経てば忘れてしまうかもしれません。そこで、大規模イベント後にも異文化に触れる機会を

作ることで、より多くの人に新城市での国際交流に関わってもらうことができます。イベントの案として、日本の文化に触れることができるもちつきや書初め、出会った仲間たちについてより知ることができる出身国紹介、何か災害が起こったとしても各々が知識を持ち自分や家族を守ることができる防災、などを考えています。

また、これらのイベントは基本的に実行委員会によって企画開催されますが、このイベントを通して出会った仲間にも実行委員会に随時参加してもらいたいです。

そして、すべてのイベントが終わる令和3年度3月には、参加者として出会った、国籍を問わない新城市民たちが手を取り合って、イベントを企画開催する姿を見ることができるとでしょう。

想定される費用としては、大規模イベントと小規模イベントの開催費として2,444,000円、SNSで情報発信する際に必要な6カ国分の翻訳費として144,000円、その他諸経費が320,000円となっており、計2,908,000円を計上しています。

この提案のメリットとしてまず、小規模イベントを行うことによって国籍を問わない関わりが深くでき、継続的に異文化交流の促進かつ普及する仲間が増えます。

そして、大規模イベントを行うことによって多くの人異文化に触れることができ、理解してもらうきっかけができます。

その結果、見た目や言語などの国籍による違いをお互いに理解することで、コミュニケーションが取りやすくなり、日本人と外国人が支え合うことができる「誰にとっても住みやすい街新城市」となると思います。

現在、国際交流委員会には外国籍の委員が2人、日本国籍の委員が4人います。

私たちは同じ委員会の仲間として、国籍を意識することなく、共に切磋琢磨しています。

外国籍の委員が実際に体験したことを参考にしたり、市内に住む外国籍の小中学生を招いて会議をしたりするなど、実際の声を大切にしながら問題を明確にし、日本人と外国人が歩み寄るための策を考えました。

答申後も、委員一人ひとりが強い思いを持って、実現に向けて精一杯取り組んでいきたいと考えています。

以上で、国際交流委員会の発表を終了します。

ご静聴ありがとうございました。

○市園響委員 ありがとうございます。自席にお戻りください。

○松下まちづくり推進課長 それでは、4つの事業の説明も終わりましたので、若者議会から市長に答申を行いたいと思います。

若者議会議長は質問席へ、市長は演壇へ移動をお願いします。

### 3. 答申

○市園響議長 令和3年度新城市若者予算事業に関する答申書。新城市若者議会は、若者総合政策の実施に関して、令和3年若者予算事業計画を策定しましたので、新城市若者議会条例第2条第1号に基づき、以下のとおり答申します。令和3年度新城市若者予算総額 9,806千円。

#### 1. ビンゴde移住事業 2,671千円。

田舎暮らしを考えている若者ファミリーに向けて、新城の良さを知り、地域と関係を構築でき、移住後の生活の支援が受けられるよう、ビンゴという手法で新城市への移住を促します。

#### 2. 感じてみりん！新城の桜プロジェクト事業 1,270千円。

新城駅前の桜の思い出や歴史を残し続け、次世代にも思い出を作っていってもらうために、伐採された桜を活用した看板の設置と桜

の植樹を行います。

#### 3. 家族でしんしろってかん？事業 2,957千円。

市外の子どもたちに、新城の強みである自然やそれを活かした体験を味わってもらうことで記憶に残し、新城にまた来たくなるような思い出を創出するために、自然体験イベントを開催します。

#### 4. PON×2 Bonds事業 2,908千円。

国籍に関係なく助け合うことができ、市民全員が住みやすいまちとなるために、また、日本人と外国人の間にある壁をなくすために、お互いを知り関わるきっかけが生まれるようなイベントを開催します。

令和2年11月6日。新城市長穂積亮次様。  
新城市若者議会 議長 市園響。

### 4. 市議会議長あいさつ

○市園響議長 それでは、続いてお忙しい中ご出席いただきました、鈴木市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○鈴木達雄市議会議長 若者議会の皆さん、こんばんは。

本日は、令和3年度の新城市若者予算事業に関する答申ということでした。

このコロナ禍にあって、皆さん、5月の第1回から今まで6ヶ月でありますけども、なかなか皆さんこぞって会えないというような状況でありましたと思います。

その中で、ウェブ会議というようなことであつたかと思えますけども、その中で今日の答申をまとめられたということで本当にいろんな意味で大変なことがあつたかと思えます。

また、若者の皆さんにとっては、そのリモートのウェブ会議ということについては、慣れているのかもしれませんが、そういうことで今回答申にこぎつけたということ、うれしく思っております。

市長から答申については、コメントをいただくのが本来でありますけれども、私も皆さんの答申を聞いて感じたところを少し触れてみたいと思います。

1番目の移住定住委員会ですか、「ビンゴde移住」、移住定住というのが新城市の本当のど真ん中のテーマだと思ってます。それをビンゴというゲームで挑戦するという、そういったところ興味を非常に持ちました。

また、駅前商店街開発委員会、「感じてみりん！新城の桜プロジェクト」。新城の桜の木、新城駅の前の桜の木がなくなってしまうというような、市民の中の声がありました。新城の顔である新城駅、シンボルとしての桜が復活するのはとても楽しみです。桜の植樹や看板設置をきっかけに、それはきっかけでありまして、その先の市民の皆さんの活動として継続していくようなものになっていくと嬉しいなと思います。

また、観光PR委員会の「家族でしんしろってかん？」。ネーミングに引かれました。ただ、中身は新城の本当の魅力を伝える地道な事業。やる方が大変な事業かなと思います。ただ、やれば必ず成果が見える事業かなという印象を受けました。

また、国際交流委員会、読み方がポンポンボンズということで、今日初めてわかりましたけれども、聞いてみると本当に思いが伝わってくる事業だなと思います。壁を克服する。まずは行動が物を言う事業だという印象を持ちました。新城の未来につなぐためには、国際交流、本当に重要な視点だと思います。

先ほど申し上げましたけれども、ウェブ会議がほとんどという中での事業をまとめること、苦労したのか、逆にやりやすかったのか。そんなことをちょっと聞いてみたいなと思いました。新城市議会としても、いろいろな意見をまとめるのが非常に大変なことがありますので、その辺について皆さんのこの6ヶ月の会議の進め方、参考にしてみたいなというこ

とを思っております。

令和3年度予算は、市長から議会の方に提案されまして、議会が決定し、また次年度市長がそれを実行していくということになります。議会としても応援していく所存でございますけれども、答申がしっかりと活かされるように、成功を祈っているところです。

今年度も若者議会はまだまだ続くわけありますけれども、答申もされましたけれども、次の次年度になって事業執行に至るまで、熱い視線で皆さんには見ていただきたいなと思っております。

今後も皆さんの引き続いての活躍をお祈りいたしまして、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

## 5. 市長あいさつ

○市園響議長 ありがとうございます。最後に、穂積市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○穂積亮次市長 新城市長、穂積亮次です。先ほど今、若者議会議長市園さんから、皆さんの4つの委員会の提案、答申をいただきました。

5月から始まりました若者議会での議論のすべての成果、また皆さんの思いが詰まった答申として、しっかりと受けとめさせていただきたいと思います。

5月の所信表明、議長選出、副議長選出から委員会に分かれて、中間答申を経て、今日の最終答申に至ったわけですがけれども、大変絞り込まれた、練り上げられた提案だというふうに、まず第一印象を持ちました。

新城市の大きな目標として、新城市には総合計画というものがあります。ご覧になった方もいるかもしれません。総合計画のタイトル、表題は「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ」というものでございます。これは平成17年に合併をして、最初に作った第一次総合計画に続く第二次総合計画と呼ばれ

ています。約十年間の新都市の様々な建設事業の建設計画、まちづくりの方向を定めた、いわば新都市のまちづくりの設計書であります。第一次総合計画のタイトルが、ひと、市民と書いて「ひと」と言いますが、市民がつなぐ 山の湊 創造都市」。山の湊というのは皆さんご存知の通り江戸時代の新城のにぎわいを表した言葉ですね。馬が波のように押し寄せてくる。いろんな物資の集散、集まってまた散っていく集積の拠点であった。江戸時代、それが馬車といいますか、荷物を積んだ馬が波のように来る。それが山の湊新城。そのにぎわいを私どもは合併時、3つの市町村合併してきた新しい新都市を立ち上げる時にその姿を思い浮かべながらですね、21世紀の山の湊たる新城を目指して進み始めました。そのすべての力の根源は、ひとがつなぐ、市民がつないでいく、そういう力に置いてきたわけです。約十年間の第一次総合計画で様々な事業ができあがってきました。達成できたものも、まだ不十分なものもたくさんありますけれども、市民の皆さんの満足度というのは総体としては高まってきました。

そして、平成17年にはまだなかった新東名高速道路がもうすでに開通した中で、第二次総合計画を策定をする段になって、どういう目標を掲げていくのか。その中で出てきたのが先ほど申し上げました通り、「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしる」というキャッチフレーズでした。第一次総合計画のひとがつなぐ市民がつなぐということ踏まえ、繋がる力というものでこの町を盛り立てていこう。人口が減っていったり、過疎化が進んだり、学校が統廃合されたりする。これは今日本全国が抱えてる課題でもあり、新城はその先端をいってるようなものですが、それに負けて、議論が内向きになって、「寂しい寂しい、昔はよかった。こんな人口減ってどうなるんだ。」そんな不安感で押しつぶされそうになるまちではなくて、人口は確か

に減ってるけれども、それは住んでる人の、今住んでる人の人口が減っていただけであって、皆さんの前にはもっと多様な広い広い世界が目の前に開けています。その中で様々な繋がりを皆さんは持っていく。そういう時代ですね。市民同士の繋がりもあります。それから、男性女性、或いはそのどちらにも属さない、様々な多様な性の人があります。その人との繋がり、世代の繋がり、そして新城に住んでる人と住んでない人の繋がり、日本人と外国人の繋がり、地球上、世界中にその繋がりが広がろうとしています。ニューキャッスルアライアンスもその一つであります。その繋がる力を、新しい豊かさに変えていきましょう。それが我々のまちのテーマ。それが第二次総合計画であります。

今日の4つの答申は、まさにそれぞれの立場、それぞれの課題から繋がる力を見せてくれたと思います。様々な繋がりはありますけれども、多様性はありますけれども、その中で力の一つにしていく事が、我々に課せられた使命かなというふうに思います。

ちょうど今日、令和3年度の若者議会の答申を受けている今日この日は、世界中でも一番注目を集めているアメリカ大統領選挙の開票が進んでいる日です。世界中の民主主義の見本と手本と言われてきたアメリカ合衆国でありますけれども、信じられないぐらいの惨憺たる状況が広がっています。もちろんきっとアメリカの国民は、こうした状況を乗り越えて、また新しい社会をつくっていくと思えますけれども、ただ、社会の中にある様々な憎しみ、差別、偏見、これを逆に煽りたてて、何かの新しい方向性を出そうとしていくのか。それとも、繋がる力を今一度ですね、新しい形でつなぎ合わせていこうとしているのか、今、世界はそのせめぎ合いにあります。

私たち新城は小さなまちではあるけれども、これから一人一人の力で繋がる力を紡いでいくことはできます。そして、それが皆さんの

明日の人生、或いは皆さんのご家族や友達や地域の明日の暮らしを決めていくことになるかと確信をしています。そういう意味で、今日いただいた4つの提案、これを私どもは今日これから受けとめて、来年度、令和3年度の予算編成事業の中に組み込ませていただきます。

先ほど議長がおっしゃっていただいた通り、来年の3月には新城市全体の予算を調整をいたしまして、市議会に予算案として提案をいたします。その予算案は、毎年約220億程度の予算ですけれども、来年度はまたコロナで非常に厳しい予算組みになりますけれども、やはり200数十億の大きなお金であります。皆さんが提案いただいた980万6,000円の令和3年度の若者議会予算提案は、その中に若者議会枠として設けられて組み入れられて、議会の方に提案をされていきます。おそらく来年も議会の方から呼びかけがあるかと思いますが、予算審議の前には若者議会の委員の皆さんと市議会の皆さんとの意見交換も多分行われるのではないかと思います。そして来年の3月の予算議会で審議をいただいて、議決をいただければ、来年度からそれを実施をしていくということになると思いますが、そうした流れの中でやりますので、今日提案していただいた皆さんの予算建議、答申は、みんながこの半年間精一杯、人の意見に耳を傾け、自分の考えを整理して、まとめてくれたものだと思いますが、来年度は次の若者議会の皆さんが、令和4年度に向けて動き出していきます。

そして、皆さんの事業が実施されていくのは、来年の令和3年度です。その時には皆さんはそれぞれ立場で学校を卒業している方もおられるかもしれない。社会人となって仕事をしている人もいるかもしれない、大学生になってる人達もいるかもしれませんが、今日のこの答申に立った皆さんの熱の込めた思いをですね。願わくは来年もずっと胸の中に

抱き続けて、来年度の事業をしっかりと見守ってもらって、そして令和4年度の若者議会、君たちの後を継ぐ若者議会の皆さんに、みんなのできるエールを送り続けて欲しいと思います。

今年はコロナ禍の中で会議一つ開くのも大変だったと思いますし、リモートの会議も慣れない中で手探りだったと思います。その点では、例年よりもはるかに一つのマイナスの要素を抱えていたんですけれども、今日、答申をいただいて、そうしたことを吹き飛ばすような提案をいただきました。よくまとめていただけたなあと思います。またそれを支えてくれたメンターの方々、市外委員の皆さん、市の事務局の職員、そして何よりも皆さんの毎晩の会議を温かく見守ったり、見送っていただいたご家族、学校の先生方、会社の上司、仲間たちへの感謝をまた持ち続けて、これからの歩みを続けて欲しいなと思います。皆さんの若者の力を糧に新城市はこれからですね、さらに多様な繋がる力を作り上げて、まちづくりに邁進していくことをお約束して、令和3年度の若者予算事業に係る答申書を受け取りましてのコメントに変えたいと思います。

お疲れ様でした。ありがとうございます。

○市園響議長 ありがとうございます。本日をもって無事に市長答申を終えることができましたが、今後さらに政策について、深く考えて話し合っていきたいと思います。

これをもちまして、第10回新城市若者議会 市長答申を閉会させていただきます。

閉 会 午後8時